

答辞

私たちが今日の卒業式を迎えられたこと、ありがたく感謝申し上げます。

また、ご多忙の中をご出席くださいました御来賓の皆様、学院長、理事長おはじめ諸先生方、いつも見守って下さった家族に卒業生一同心からお礼申し上げます。

西大学院の学びでは、ビジネス、芸術面など様々な分野のプロフェッショナルの先生方がご指導くださいました。先生方の夢を追いかけているお姿はキラキラと輝きまぶしいです。そのお姿を見て私たちはいつか先生方のように夢を追いかけたい。そんな気持ちになるのです。先生方はただその教科を教えるのではなく、情熱や思い、勇気を私たちに授けてくださいました。たくさんの学び、感動をありがとうございました。

入学後、私は八重子先生に叱られることが人一倍多いように感じていました。思わず、西大学院の卒業生である姉に愚痴をこぼしました。姉は「今は分からないかもしれないけれども、あなたにとって理事長、八重子先生は父、母になりますよ」と言ってくれました。今まで学校とは学費を払い、その科目を習得するところだとしか考えていなかった私は、半信半疑でした。

昨年、父が亡くなりその父が無償の愛で私を包んでくれていたことに気づきました。今になって、理事長、八重子先生からいただいたたくさんの愛情はまさしく父母の愛情だったと感じています。悪いところは叱り、良いところはちゃんと見てほめてくださいました。いつか巣立つその時まで、魂込めてご指導くださいました。時に、先生の御指導は言葉では伝えてくださいませんでした。八重子先生に相談すると「どうしますか」と私自身に答えをだすように促します。そのたびに『どうしよう』ともがくのですが先生に話していると不思議と考えがまとまっていきます。それは私の中にある答えを先生が時間をかけてでも引き出し、成長を促してくださっていたのだと思います。

ある朝、先生は花のお手入れをなさっていて「元気がないは花びらまでたっぷり水につけて、元気にしてあげるのよ」教えてくださいました。花は見事に元気になりました。そしてその元気になった花で教室を飾ってくださいました。その花にしてあげたことと同じことを私たちにもし続けてくださっていたのだと感じました。八重子先生は私たちが来たときは「お帰りなさい」とお迎えになり、行くときは「行ってらっしゃい」と送り出してくださいます。この西大学院からこれからも見守って下さるのだと思っております。

今までのご指導に感謝申し上げますとともに卒業後もご指導、ご鞭撻くださいますようお願い申し上げます。

この一年は私にとって激動の年でした。八年間務めた会社を退職し西大学院に入学しました。そして結婚し、新婚旅行は皆と一緒に研修旅行に行き、幸せと楽しみいっぱい中、父を亡くしました。今思えば、この年にしか乗り越えられないことばかりだったのではないかと思っております。結婚式ではみんな笑顔で祝福してくれて、父の葬儀では泣いている私を見て心を痛め、ともに泣いてくれました。その姿を見て、私は大丈夫乗り越えられる。そう確信しました。授業の中でも一緒に喜んだり、悲しんだりできた事はそれだけ私たちが支えあって一年間を過ごしたからでしょう。今までまったく違う人生を歩んできた七名と一緒に学べたこと、出会えたことはとても幸せです。

卒業を迎え、それぞれの道を歩みだすときがやってまいりました。これからたくさんの困難にぶつかります。そのたびに、私たちはこの西大学院のことを思い出すでしょう。きっと乗り越えて見せます。

それでは理事長、八重子先生、奈緒子先生、諸先生方行ってまいります。

平成27年3月7日

西大学院第20期卒業生代表